

(別紙4(2))

事業所名グループ・ホーム 夢の郷

## 目標達成計画

作成日: 平成 22年 8月 30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間	
1	1	「お客様に安心を、職員に生きがいを」の企業理念の基、10項目の行動指針が掲げられている。が全職員に充分浸透していないことを指摘され、改めて気がついた。	企業理念・行動指針を実践していく。	毎日の業務申し送り時に、1項目ずつ日にちの数字に合わせて、職員間で唱和します。【今日は一番の です。皆で一番のを唱和しましょう。】今日1日を で行動します。	12ヶ月
2	4	所在地である町の行政機関との関係が希薄である。散歩中、池にはまっせず濡れになっていた高齢者を見かけたため、行政機関に保護をお願いしたが、すぐに駆けつけてもらえず、警察へ連絡せざるを得ない場合があった。	様々な情報発信をし、積極的にグループ・ホーム側から協力関係を築く。	【グループ・ホーム夢の郷】を知っていただけるように、研修会の案内や、場所の提供を通して、顔見知りになれるようにしていきます。	12ヶ月
3	10	日々の入居者に対する記録に漏れがないように、見たまま、言葉を発したままを正確に記述するようにしているが、例えば暴言や暴力行為があった場合の、なぜそうなったのか、その後の対応等、前後の状況の記載に不十分な点が見られる。	誰が記録を読んでも、その場の状況が見えてくる、想像できる、分かり易い記録をする。	記録のしかた、とり方、読みやすさに心がけ、毎月のモニタリングを行い、カンファレンスをし、全職員が介護計画を作成していきます。	3ヶ月
4	12	入居の契約時に、重度化や終末期に向けたあり方についての話し合いをすることが望ましいと指摘された。	終末期の看取りも医療機関と連携をとって実施していく。重度化の場合、搬送先の医療機関の再確認をする等、契約時に話し合いをする。	開設してから日も浅いので看取りをした入居者はありませんが、今後はニーズに応じて、医療との連携を図りながら勉強して行きます。	12ヶ月
5	13	夜間帯に職員が1人になるため、緊急時マニュアルの確認と、昼間帯の入居者の様子・状態確認の申し送りを適切にする。	非常時の体制に備える。	緊急連絡網の連絡手順などの復唱と確認をします。階下の通所職員や、近隣住民の方との連携をしていきます。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。